

がん研究奨励賞 (林原・山田賞)



加藤 卓也

略 歴

学歴

平成13年3月 岡山県立倉敷青陵高等学校 卒業
平成13年4月 岡山大学医学部医学科 入学
平成19年3月 同 上 卒業
平成19年4月 第101回医師国家試験合格 (医籍登録第463755号)
平成26年4月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程入学
平成31年3月 同課程 修了

職歴

平成19年4月1日 広島市立広島市民病院 研修医科に勤務 (初期臨床研修医)
平成21年4月1日 湘南鎌倉総合病院に勤務 (後期臨床研修医)
平成23年4月1日 広島市立広島市民病院 外科に勤務 (後期臨床研修医ならびに医員)
平成26年10月1日 岡山大学病院 消化管外科に勤務 (医員)
平成29年10月1日 福山医療センター 消化器外科に勤務
令和元年6月 米国国立衛生研究所 Visiting Fellowship

研究論文内容要旨

癌微小環境において癌関連線維芽細胞 (Cancer-associated fibroblasts: CAFs) は腫瘍増殖に重要な役割を果たしている。我々は腫瘍免疫抑制を担う腫瘍浸潤リンパ球 (Tumor-infiltrating lymphocytes: TILs) をCAFsが制御しているかどうかを検証した。食道癌切除標本において、CAFsとCD8+ TILsは負の相関があり、逆にFoxP3+ TILsとは正の相関を認め、CAFsは腫瘍免疫抑制に関連していることを証明した。次に様々な癌細胞株で刺激した線維芽細胞からは、正常の線維芽細胞と比較しInterleukin 6 (IL6) が高度に分泌されることを突き止めた。IL-6高濃度腫瘍モデルにおいて、BALB/cマウスでは、IL6は皮下腫瘍を有意に増大させ、腫瘍内のCD8+TILsは減少し、FoxP3+TILsが上昇する免疫抑制状態を呈していた。最後に、抗IL6抗体でCAFs共接種皮下腫瘍を治療すると皮下腫瘍の増殖を抑えるだけでなく、腫瘍内の免疫抑制状態のTILsを改善させる結果が得られた。CAFsは腫瘍微小環境においてIL6を介しTILsを腫瘍免疫抑制状態へと制御していることが認められた。抗IL6抗体は宿主腫瘍免疫を改善させ、既存の免疫療法の効果を増強し得る可能性があることが示唆された。IL6 blockadeは既存のがん免疫療法と併用することで奏効率の改善に寄与する可能性があり、さらに、同治療法は他疾患に対してすでに臨床に応用されていることからre-positioning drugとして今後のがん免疫療法への発展が期待される。

以 上